

学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トボス]

Topos

vol.81
Feb. 2017

常磐短期大学の50年

「特集」



1975
頃



「見和キャンパス」

1966年の創立当初は、本館（現・A棟）、教室・礼法室、用務員室、陸上トラックのみ。その後、寄宿舎、二号館（現・B棟）、器楽練習館、プール、幼稚園舎、体育館が建ち、1975年に三号館（現・D棟）が竣工。1983年の大学開学も相まってキャンパスはさらに発展していきました。



2016



常磐短期大学創立50周年

半世紀のあゆみを振り返って

1966年、水戸市見和に誕生し、2016年に創立50周年を迎えた常磐短期大学。開学から今日までの道のりを礎にして、「実学を重んじ、真摯な態度を身に付けた人間を育てる」という建学の精神を受け継ぎ、次の50年に向かってスタートを切ります。

1966



1966年4月、家政専攻73名、食物栄養専攻46名、計119名の入学生を迎え、第1回入学式を本館の教室で行いました（初代学長諸澤みよ）。



「入学式」

2016



1969
頃



創立当初は田の畦道を利用して通学していましたが、1969年、道幅4mの通学路が完成。常磐スカイラインの愛称で学生に親しまれました。



「通学風景」

2016



1976
頃



常磐学園短期大学学園祭は開学から2年目に初めて開催されました。ときわ祭と呼ばれるようになったのは第6回から。



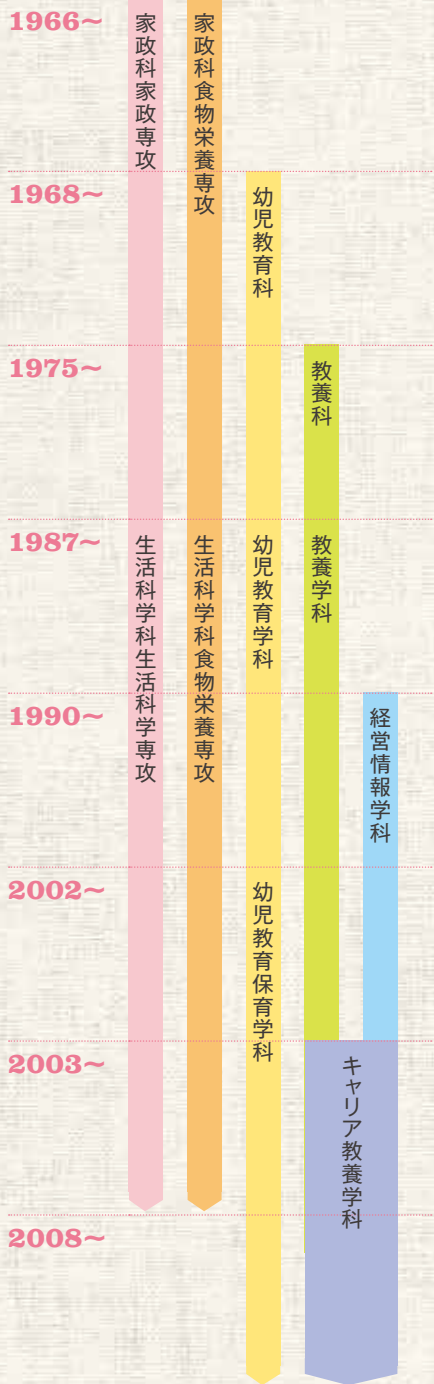
「ときわ祭」

2016



学科の変遷

本学は、学生や社会とともに歩み、時代の移り変わりとともに教育を進化させてきました。現在はキャリア教養学科と幼児教育保育学科の2学科構成で、実学志向の教育を充実させています。



1967頃 家政科家政専攻



2004頃 生活科学科生活科学専攻

1966~1986 家政科家政専攻 → 1987~2007 生活科学科生活科学専攻

開学時の教育の柱であった家政科家政専攻は、時代にふさわしい教養と生活能力のある女性の育成を目標としました。1987年生活科学科生活科学専攻に名称を変え、その後2008年に役目を終えるまで社会に多大な貢献をしました。



1967頃 家政科食物栄養専攻



2001頃 生活科学科食物栄養専攻

1966~1986 家政科食物栄養専攻 → 1987~2007 生活科学科食物栄養専攻

県内で最も伝統のある栄養士養成校として、地域の健康づくりに貢献。その志を受け継ぎ、時代と社会が求める管理栄養士としての知識と能力を養うため、2008年、常盤大学人間科学部健康栄養学科へと発展を遂げています。



1976頃 幼児教育科



2012頃 幼児教育保育学科

1968~ 幼児教育科 → 2002~ 幼児教育保育学科

開学2年後の1968年には幼児教育科がスタート。1970年には附属の幼稚園も開設し、実習がより効率的に行えるようになりました。保育士資格と幼稚園教諭二種免許状が取得できる学科として、各方面から評価をいただいています。



1976頃 教養科



2014頃 キャリア教養学科



1991頃 経営情報学科

1975~ 教養科
1990~2002 経営情報学科 } → 2003~ キャリア教養学科
秘書・教養の2コースで始まった教養科は1980年に国際を加えた3コースに発展。その後1990年に設置した経営情報学科と統合し、2003年、企業や地域への貢献を目指し、両学科の長所を合わせたキャリア教養学科として今日にいたります。

女子教育一筋に歩んだ、創立者「諸澤みよ」

創立者諸澤みよは、1909年裁縫教授所を設立。その後も高い志と情熱をもって、女子教育一筋に歩んできました。独立して生きていける知識や技術あるいは資格を身に付けさせ、さらに人間としても立派な女性を育てたいという夢と願いは、1966年、常盤学園短期大学というかたちとなって実ったのです。私塾から始まった学びの場は、学校法人常盤大学にまで成長しました。





常磐短期大学創立50周年

記念講演会

(同窓会「みわの会」共催)

2016年
10/23
B棟206教室



当日は、同窓会「みわの会」総会、記念講演会、茶話会の3部構成で行われ、50～60代中心の卒業生51人、退職された先生11人、現役の教職員34人、計96人が参加。茶話会では思い出話に花が咲きました。

演題:

「より魅力的な私にコーディネート —色彩の魔術—」

常磐短期大学 名誉教授 宮田 久美子 先生



PROFILE

1973年4月から2016年3月まで、専任講師、助教授を経、教授として計43年間常磐短期大学に在職。博士(学術)。「色彩心理学」「服飾論」を専門とするが、「秘書学」等も担当し、家政科、生活科学科、キャリア教養学科の多数の学生に、暮らしにも生かせる知識を幅広く教授してこられた。

色を上手に使うコツを学び、 茶話会では旧交を温めることができました。

本学名誉教授の宮田久美子先生を講師にお迎えし、卒業生と教職員を対象に記念講演会を開催しました。色彩の基礎知識から始まり、視認性や明度による見え方の違いなどを事例も挙げてご説明いただき、自分の顔の印象は客観的にどうなのか知った上で、①色数は3色までにおさえ、②色を繋げ上下同系色にする、③赤・黄はアクセントカラーに、といったアドバイスをいただきました。講演会に先立って同窓会「みわの会」総会も開かれ、講演会後の茶話会では先生方を囲んで会話が弾みました。クライマックスは先生方への花束贈呈。終始楽しい雰囲気の中、旧交を温めることができました。

50周年記念誌を 作成しました!

常磐短期大学の50年間の歴史を綴った記念誌を11月に発行しました。年代ごとに学科・施設・学内行事の変遷を掲載したほか、本学関係者からの声も掲載しています。



短期大学50周年を記念して、さまざまな企画を実施しました。
常磐短期大学は創立50周年を迎え、これまでの歴史を想い、新たな歴史を重ねていくため、「記念口コマーク」の制定や「見和キャンパス施設整備事業」、「記念誌」の刊行など、さまざまな記念事業を行っています。秋に行われた「記念講演会」と「記念式典・祝賀会」では、懐かしい顔から現役学生まで、笑顔が集いました。



常磐短期大学創立50周年

記念式典・記念祝賀会

2016年
11/19

H棟大講義室(記念式典)
L棟学生食堂(記念祝賀会)

記念式典



幼児教育保育学科「合唱」履修者20人による校歌斉唱。日頃の練習の成果を存分に発揮した歌唱で会場を一つに包みました。



茨城県知事御名代 茨城県副知事 楠田幹人様。



地域と世界に開かれた大学への決意を述べた森征一理事長。



須藤麻優里さん(キャリア教養学科2年)が学生を代表してあいさつ。



文部科学大臣御名代 大学振興課課長補佐(併)公立大学専門官 君塚剛様。



受付・誘導はキャリア教養学科の学生9人が担当。キャリア教養学科では、授業を通じて、ビジネスマナーやお客様をおもてなしする作法も学んでいます。

記念祝賀会



水戸の梅大使として、首相官邸を訪問したことなど貴重な経験を報告した伊勢ひかるさん(キャリア教養学科2年)。短期大学で学んだことを生かして、今後も感謝を忘れずに歩んでいきたいと語ってくれました。



建学の精神を堅持し社会に貢献する人材育成を誓った富田信穂学長。



水戸市長 高橋靖様は市で活躍する卒業生の活躍を語ってくださいました。



幼児教育保育学科 鈴木範之准教授の課題研究履修者18人によるハンドベル演奏。澄んだ音色を響かせました。



50周年記念ロゴマークを公募した際の入賞者の表彰式。1位の大澤美咲さん(人間科学部コミュニケーション学科4年)には賞状と副賞が贈られました。



幼児教育保育学科 酒巻洋一准教授の指導のもと有志4人が記念モザイクを作成。ご来場の皆さまにもご協力いただいでピースを加え完成しました。



遠藤瞳さん(キャリア教養学科1年)は現役学生を代表して、国際文化研修、インターンシップなどの活動の様子をアピールしました。

学生らしい活動や日頃の学びの成果をご披露しました。

11月19日に見和キャンパスで記念式典・記念祝賀会を開催しました。式典・祝賀会を合わせてご来賓約70人、教職員50人、在学生370人が出席しました。式典・祝賀会ともに、キャリア教養学科、幼児教育保育学科の両学科の学生によるあいさつをはじめ、校歌斉唱、活動報告や作品、演奏など、学生の発表を披露し、会場からは温かい拍手をいただきました。常磐短期大学は、これからも常磐大学幼稚園、智学館中等教育学校、常磐大学高等学校、常磐大学と連携し、さらなる発展を目指します。

News and Topics

学生、生徒、園児たちは日々学び、経験し、成長を続けています。
このページでは学校法人常磐大学の各学校の取り組みやイベントの様子をはじめ、
日々の活動とその成果をお知らせします。

大学・短大

F棟1階にラーニング・commonsがオープン。 オープニングセレモニーを開催しました。

10月26日、「ラーニング・commons」のグランドオープンを記念して、オープニングセレモニーを開催しました。「ラーニング・commons」は、学生たちが話し合いやグループワークを交えながら学修・研究できる場で、さまざまな活動に柔軟に対応することができます。セレモニーは、学生の自主的な学修を支援しているSA(スチューデント・アシスタント)が中心となって企画。富田信穂学長によるあいさつの後、吹奏楽団のファンファーレを合図に、富田信穂学長、渡部茂己学事センター長、SA代表の清水佳奈さんによるテープカットを行いました。その後は、SAがリーフレットやホワイトボードなどを使って、見学者に利用方法を案内。今後、「ラーニング・commons」が多くの学生に活用されることを期待しています。



高校



特進選抜コースの総合学習で 涸沼の環境問題に取り組みました。

2学期の特進選抜コースの総合学習で、常磐大学コミュニティ振興学部
の元木理寿先生による探究型授業を実施しました。テーマは「涸沼周辺
域の自然環境調査から考えるESD(持続可能な開発のための教育:
Education for Sustainable Development)」で、涸沼周辺域で2回
にわたるフィールドワークを行い、調査結果のポスター発表を行いました。
涸沼は昨年度ラムサール条約に指定され、生態系の保存が重要な地域
になっています。茨城町の役場やシジミ漁師の方々から自然や歴史など
の話を聴き、課題を整理することによって、新たな疑問が生まれ、活発な
議論が行われました。2回目の調査で生徒たちが積極的に質問する姿か
らは、涸沼が抱えている問題を自分のこととして考え、研究活動に取り組
む姿が見られました。

短大

恒例の「幼教フェスタ」を開催。 華やかなステージを披露しました。

幼児教育保育学科の学生たちが12月25日に「幼教フェスタ」を開催しま
した。この催しは、学生が日頃の研究成果を発表する一大イベントで、ス
テージ発表では、ハンドベルの演奏・ダンス・演劇・合唱など、練習の成果
を存分に発揮しました。年間の活動をまとめたポスター、教材研究の一環
として作成された作品の展示のほか、クリスマスをテーマにしたプログラ
ムも数多く展開され、会場は華やかな雰囲気になっていました。また、
舞台転換やチームの入れ替えでは息の合ったチームワークを披露。全員
で素晴らしい舞台を作り上げ、協働する力の成長も感じさせました。新体
育館の建設に伴い、短期大学開設とともに歩んできた本学記念体育館と
もお別れ。その節目にふさわしく、来場者と一緒に楽しめた楽しいフェスティ
バルでした。





幼稚園

恒例行事「餅つき」と「収穫祭」で 2学期を無事に締めくくりました。

12月14日、年長さんたちが幼稚園代表で餅つきを行いました。昔ながらの杵と臼で、担任の先生と一緒に一人ひとり交替でべったん、べったん、ひとつきごとに白くてのびのよいお餅になっていきます。年少さん、年中さんから「よいしょー!」と応援の声が上がり、杵を持つ年長さんの手にも力が入ります。つきあがったお餅は鏡餅にしてみんなのクラスにお供えしました。また、翌15日には収穫祭も開催。年長さんが春から大切に育ててきたお米をかまどで炊きあげ、炊き立てのご飯をラップでおにぎりにしました。田植えから始まって、おにぎりになるまでの過程を思い浮かべると、感慨深く、おいしさもひときわ。迎える年がみんなにとって良い年であるように、願いを込めていただきました。



大学・短大

誰もが楽しめる「ときわ祭」を目指して 学生が力を合わせました。

秋の一大イベント「ときわ祭」が、10月22日、23日に開催されました。今年度のメインテーマである「TOKIWA's COLOR 2016」を表すように、ゼミや部活、サークルなどが、個性&カラーを打ち出した模擬店や企画展を実施。野外ステージでは、お笑いライブ、ダンスパフォーマンスなどが行われ、会場を大いに沸かせました。また、恒例の講演会には、メンタリストのDaiGoさんが登場。「ちょっとした行動で未来を変える方法」という興味深いお話を聞かせていただきました。ときわ祭実行委員長の前田魁さん(人間科学部健康栄養学科3年)が「地域のいろいろな世代の方々に満足していただける、まったく新しいときわ祭になったと思います」と語ってくれたように、訪れた人たち誰もが楽しめる学園祭になりました。



大学

「大家族！石田家から学ぶ！ 私たちのライフプラン」講演会を開催しました。

日本テレビ系列のドキュメンタリー番組「7男2女11人の大家族石田さんチ」で人気を博している石田晃さんによる講演会を12月11日に開催しました。この講演会は、県が公募した企画に、若い世代のライフプランに関心を持つ本学の学生団体「TOKIWAライフプラン応援係」が応募した企画が採択された結果、実現したもの。講演では、石田さんからユーモアあふれる家族のエピソードなどを紹介していただき、その後、学生とのトークセッションを行いました。TOKIWAライフプラン応援係代表の猪狩一顕さん(人間科学部コミュニケーション学科2年)は、「結婚や子育ての重要性を認識する貴重な機会になりました。石田さんの話を聴いて、子どもを育てることの大変さと、楽しさを見いだして頑張ることの大切さを教えていただいた」と講演会を振り返りました。

※主催:TOKIWAライフプラン応援係、常盤大学、茨城県 後援:いばらき地域づくり大学、高専コンソーシアム



智学館

4年次生が海外研修旅行に出発。 異文化への理解を深めて帰国しました。

10月12日から21日にかけて、本校の4年次生がアメリカ東海岸への研修旅行に行ってきました。ボストンのホームステイでは、普段の英語学習の成果を発揮して、ホストファミリーと交流を図り、ショッピングや観光などすきな時間を過ごすことができました。また、ニューヨークでは、国連本部を見学し、スタッフの方から国際連合やそれに関連する組織の仕事について学びました。最終日の夜は、ブロードウェイのミュージカル「アラジン」を鑑賞しました。世界の文化の発信地の一つであるニューヨークで、本場のミュージカルの素晴らしさを味わうという得がたい経験ができました。短い期間にもかかわらず、生徒たちは思い思いに異文化理解を深め、ひと回り大きく成長して帰国しました。



高校

茨城県民文化センターで
芸術鑑賞会を実施。
今年度は落語を鑑賞しました。

10月31日、芸術鑑賞会を実施しました。今年度は日本文化を代表する「落語」を鑑賞しました。初めて落語を鑑賞する生徒が多い中、柳家喬之助さんがとても分かりやすく面白く、落語の世界へと案内してくださり、続く桂かい枝さんは、英語落語を披露。三増紋之助さんの曲ごまでは、生徒も挑戦し、無事成功すると大きな拍手が鳴り響きました。とりをかざった三遊亭小遊三さんによる落語は、とても奥深く、生徒たちも身を乗り出しながら聞いていました。生徒たちの笑顔が充実した時間であったことを物語り、芸術の秋にまた一つ、豊かな心を育みました。



大学

「ボランティア・市民活動フェスティバル2016」を開催しました。

9月16日、茨城県社会福祉協議会と常磐大学の包括連携協定に基づき「ボランティア・市民活動フェスティバル2016」を本学見和キャンパスで開催しました。今回は、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）事務局長の明城徹也さんによる基調講演や、5つのテーマによる分科会が行われました。学生ボランティアが受付や誘導などの運営サポートに加わり、参加した方々と笑顔で触れ合う姿が見られました。当日は、市内の子どもたちによるダンスパフォーマンスや社会福祉法人施設による「お月見デザート」の販売なども行われ、盛況のうちに閉会しました。



智学館

English Dayで各年次が課題に挑戦。
6年一貫教育の成果を発揮しました。

12月18日、英語学習の成果発表会である「English Day」を行いました。1年次は洋楽の歌詞暗唱、2年次は英語劇、3年次はインタラクティブ・フォーラム形式の討論会、4年次は海外研修についてのプレゼンテーションを行い、5年次は年金や出生率についての主張など、さまざまな課題に取り組みました。年次が上がるにつれ発音や内容がステップアップしていく様子が分かり、6年一貫教育のメリットが明確に表れた発表会になりました。本校では、これからも「英語はできて当たり前」を合い言葉に、グローバルに活躍できる人間の育成に力を注ぎます。



幼稚園

「のあのおコンサート」で
楽しいひとときを過ごしました。

11月24日、外は今季初めての雪。この日、のあのお二人「のりゆきお兄さん&あさみお姉さん」が幼稚園に遊びに来てくれました。のりゆきお兄さんの軽快で抑揚のあるピアノと、あさみお姉さんの明るくすてきな歌声が響き渡り、遊戯室はまるでコンサート会場のような様子でした。歌とピアノ演奏で進行するパネルシアターのユニークなお話、お姉さんの透き通るような歌声にうっとり聞き入ったり、一緒に歌ったり、お兄さんと元気いっぱい体を動かして遊んだり、バラエティーに富んだ構成で、子どもたちは本当に楽しいひとときを過ごすことができました。



大学

会津若松と日光でプロジェクト科目を実施。
地域の可能性を実感しました。

10月8日に福島県会津若松市と栃木県日光市日蔭でプロジェクト科目の学外授業を行いました。会津若松では「石窯ピザキャラバン隊in会津若松」を復興公営住宅年貢町団地で開催。いまだ被災者住宅で生活されている大熊町出身の人々を励ますため「常磐大学ファーム」で学生たちが栽培・収穫した小麦で作ったピザを、持参した石窯で焼き上げました。また、日光市では、過疎・高齢化が進む日蔭地区の地域振興を目的に、学生が伝統芸能「日蔭獅子舞」の練習を重ね、演舞しました。今回の活動で学生は地域の可能性を再発見するとともに、幅広い世代の人とコミュニケーションする力を高めることができました。



智学館

体験を通して環境保護の重要性を
学んだ尾瀬自然探究旅行。

9月15日から17日までの3日間、3年次生が地球市民学の取り組みの一環として、尾瀬自然探究旅行へ行ってきました。この探究旅行では、各自の研究テーマに基づき、尾瀬の動植物を観察したり、足尾環境学習センターで植樹をしたりといった体験を通して、環境保護の重要性を学ぶことができました。2、3日目は、約20kmの湿原の遊歩道を踏破しました。声を掛け合いながら歩いた8時間の行程は、尾瀬の雄大さや美しさを十分実感するとともに、生徒たち一人ひとりの心を強くし、学級の団結を深めることにも役立ちました。



高校

2011年の震災以来となるJapan Tripを実施。ハリーエインリー高校より25人が来日しました。

11月11日、エドモントン(カナダ)にあるハリーエインリー高校より、生徒23人・教員2人が来日しました。生徒は期間中、本校生徒の家庭に滞在し、交流を深めました。14日には本校生徒と一緒に登校し、授業にも参加。ホストファミリーのご協力により、日本の文化であるお弁当を食べ、放課後には部活動の見学などで校内を散策しました。10日間の日本滞在を終えた彼らは、本校生徒が見送る中、成田空港を飛び立ちました。“What was your best memory in Japan?”という質問には、皆が“Homestay in Mito!”と答えてくれました。同世代同士、ともに生活したことが一番の交流になったことと思います。



幼稚園

みんなでアスレチック遊び。まつのごタイムで良い汗をかきました。

11月8日、短期大学幼児教育保育学科の村上八千世先生と同ゼミの学生たちが楽しい遊び場を用意してくれました。雨上がりのまつのご広場が、いつもと違った“アスレチックランド”に大変身。レngaやバスマット、竹、丸太、ビールケースなどいろいろな物をつなげ、くぐったり渡ったり、跳んだり、またいだり、組み合わせは自由自在!「ぐらぐらしているけれど大丈夫かな?」と思う所も、子どもたちにとっては、そのスリルが魅力です。みんな想像力をたくましくして、いろいろな組み合わせを考え、良い汗をかきながらたくさん遊び込むことができました。



大学院

「災害時の「こころのケア」—東日本大震災と新潟中越地震の経験から—」をテーマに公開講演会を開催しました。

11月20日、常磐大学心理臨床センター主催による第21回公開講演会を開催しました。講師の齋藤和樹先生(日本赤十字秋田看護大学・大学院准教授、臨床心理士)は日本赤十字「こころのケア」要員として新潟中越地震、東日本大震災で活動されてきた方です。その体験をもとに、被災時のストレスのメカニズムや対処法などについて講演していただきました。齋藤先生は、ストレスマネジメントとしてTalk(話す)、Tears(泣く)、Time(時間をかける)、Tea(お茶を飲む/ゆとりをもつ)の4Tを提唱。地震大国日本で、私たちにできること、するべきことを示唆する有意義な講演会となりました。



智学館

奈良・京都での国内研修旅行で、あらためて世界の中の日本を意識できました。

10月6日から8日にかけて5年次生が奈良・京都へ研修旅行に行きました。奈良では、東大寺の大仏や薬師寺を見学し、奈良公園内を散策。京都では、建仁寺での座禅体験や清水寺、金閣寺の見学を通して、日本の伝統を実感することができました。また、留学生を交えて行われた班別活動では、京都案内に加え、それぞれの国の文化や歴史、日本の魅力などについて意見交換をしました。2泊3日の研修旅行は、世界の中の日本というグローバルな視野を身に付け、日本の伝統文化を維持・発展させるにも、英語のスキルが重要であることを再確認する機会になりました。



幼稚園

わくわくチャレンジ「運動遊び」で年長組のみんなが跳び箱に挑戦しました。

11月8日、短期大学幼児教育保育学科の森慎太郎先生と同ゼミの学生たちと、大学の広い体育館で運動遊びをしました。今回のメインテーマは跳び箱跳び。両足でジャンプし、両手をバツと着くことができるよう、まずはマットでカエルになりきって跳びはねました。次に実際に跳び箱を使って馬乗りをしたり、跳び箱の高さからジャンプをしたり、跳び箱を跳び越えられなくても、恐怖心をなくして楽しむことを目指しました。また、サーキットでは前回の運動遊びで行った後転や両足で低いハードルを越える、バランスをとって太鼓橋を渡るなど、楽しくいろいろな動きに挑戦しました。



高校

3日間の秋季学校説明会に多くの中学生、保護者をお迎えし本校の教育についてご説明しました。

秋季学校説明会を10月23日・29日、11月3日に行い、中学生、保護者の方を含めた3日間の来校者数は合計445人に上りました。全体会では、学校紹介の映像をご覧いただき、今年度からスタートした特進選抜コースの紹介や入試についての説明、本校生徒を交えての模擬面接を行った後、5教科(英・国・数・社・理)の担当者による入試問題のポイント解説を行いました。熱心にメモをとる様子が見られ、来校された方の意識の高さがうかがえました。希望者を対象とした校舎見学や入試・進路などの各種相談コーナーをご利用される方も多くいました。

Spotlight

地域や世界で力を試し、さまざまな活動を通して実践的に学ぶ。また、優れた研究成果を社会に発信する。こうした学内外で行われている活発な活動にスポットを当ててご紹介します。



智学館

自信を身に付け、希望の進路に進みます。

智学館での日々を振り返ると、いつも先生の存在が身近にあったことを思い出します。質問や相談に丁寧に対応していただいたおかげで、苦手な科目を克服でき、希望の進路に進むことができました。友人に誘われて始めた応援団の活動も、協調性や責任感を身に付けることに役立ち、人前に出ることが少なかった私の自信につながった経験です。春から通う大学は、智学館に似て、少人数制で学生と先生との距離が近く、質の高い教育が受けられると期待しています。将来の目標は助産師です。そのために、他学科の学生と学ぶ機会やサークル、ボランティア活動などを通してコミュニケーション能力を養い、妊婦さんのサポートに生かしたいと思っています。

高谷 蒼 智学館中等教育学校6年次

●進路: 茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科

先生のバックアップのおかげで成長を実感できました。

私が高校生活で学んだことは努力の大切さです。あるときホームルームで「限界を決めているのは自分だ」という先生の言葉に刺激を受けてから、高い目標を掲げるように心掛けました。早朝の0時限ゼミでは、苦手な分野や伸ばしたい分野を積極的に受講するようにしたところ、成績が少しずつ向上していく手応えを得ました。また、芸術鑑賞などの機会も多く、高校生活では、創造力と感受性を磨くことの大切さを学べたことに感謝しています。2年次の校外学習で外国の方と交流した際、日本についての質問に満足に答えられず、歯がゆい思いをしたので、大学では日本の文化や歴史の知識を深め、日本語教師という夢をかねたいと思っています。

高校



松島 梨々花 常盤大学高等学校3年

●進路: 学習院大学 文学部 日本語日本文学科

次のステージへと進むみなさんを心から応援しています。

常盤大学・短期大学、常盤大学高校、智学館、それぞれの場所で、仲間と出会い、切磋琢磨し、大きな成長を遂げた学生、生徒たち。一人ひとりが夢を信じて、一歩一歩、歩みを進め、次のステージの扉を開くことができました。希望あふれる彼らに、日々の思い出と、これからの生活への期待を聞きました。

Spotlight
01
.....
進学・就職



短期大学

「また来たい」と思えるサービスを心掛けます。

キャリア教養学科は、社会で実際に役立つマナーやスキルを学ぶことが魅力です。演習ではグループワークの機会が多く、チームで課題解決の方法を探る中で、意見を主張するだけでなく、互いの考えを引き出す大切さを学びました。その経験は、就職活動でのグループディスカッションの際、みんなが活発に発言できる雰囲気づくりに役立ったと思います。キャリア支援センターでは先輩たちの報告書に助けられました。実際に就職活動を体験した人の言葉はとてもリアルで、何度励まされたかわかりません。卒業後は百貨店に勤務します。人と接することが好きなので、お客さまが笑顔になれるような仕事をするのがこれからの目標です。

宇野 実沙樹 常盤短期大学 キャリア教養学科

●進路: 株式会社水戸京成百貨店

子どもたちとともに成長できる教員が目標です。

印象に残っている授業は「小学校教育実習」です。模擬授業をする上で、どうすれば良い授業ができるか工夫し、また、仲間の授業のやり方に刺激を受けました。小学校でのボランティアでは、学習補助をしたり休み時間に遊んだり、子どもたちと接する貴重な経験ができました。小学校の教員を志したのは、小学5年生のときの恩師との出会いがきっかけでしたが、大学で教育について学び、同じ目標を掲げた仲間と切磋琢磨することで、思いはますます強くなりました。卒業後は、子どもの心に寄り添える教員を目指します。人格を形成する大切な時期に開くやりがいと責任の重さを感じながら、子どもたちとともに成長することが目標です。

大学



松本 和也 常盤大学 人間科学部 教育学科 初等教育コース

●進路: 福島県公立学校教員(小学校教諭)

卒業生たちから働く意義を学ぶ 「OB・OG on Campus」を開催しました。

平塚 修一 常磐大学・常磐短期大学 キャリア支援センター 統括



OB・OG on Campus

12月14日に開催した「OB・OG on Campus」は、キャリア教育の一環として、県内有力企業の人事担当者や本学卒業生をキャンパスにお招きし、業界動向や企業・仕事を理解するものです。今回はメーカー・商社・マスコミ・金融・サービスなど15社にご協力いただき、就職活動を控えた大学3年生・短大1年生を中心とした約300人の学生が、企業の声を直接聞く機会を得ました。

就職活動はさまざまな人と出会うチャンス。
ぜひ前向きに取り組んでほしいと思います。

「OB・OG on Campus」は、学生にとっては先輩たちの活躍を知る場であり、大学としても卒業生とのつながりを深めることに役立っています。第一部「業界・企業研究会」では企業ごとにブースを設け、企業の紹介とともに各業界の動向や環境の変化などについてご説明いただきました。学生は、社会で活躍している先輩から、直接日々の仕事の様子や仕事の楽しさ、やりがいなどを聞くことで、社会人になることへの前向きな姿勢を得ていたようです。第二部の「交流会」には今年度の内定者にも参加してもらいました。学生からは活発な質問が飛び交い、熱心にメモをとる姿も見られ、充実した時間になりました。企業側からも今回のイベントで学生の意欲を感じたという声を多数いただきました。就職活動は、自分を知り、さまざまな企業と出会うまたとない機会でもあります。今後もキャリア支援センターとそのプログラムを有意義に活用してほしいと願っています。私たちも、学生と共に考え、学びながら、丁寧に向き合っていきます。

「何千人という学生と接してきた経験をもとに、一人ひとりに合ったサポートを行っています。まずはキャリア支援センターに来て、就職活動の第一歩を踏み出してください。」



Spotlight

03

著書紹介

常磐大学の教員が執筆した さまざまな分野の著書をご紹介します。



- ① 行動主義を理解する
— 行動文化進化 —
 - ② 森山 哲美
人間科学部 教授
 - ③ ウィリアム・M・ボーム 著
森山哲美 訳
 - ④ 2016年9月
 - ⑤ 二瓶社
- 科学の哲学としての現代の行動主義をわかりやすく説明したWilliam M. Baum 著の「Understanding behaviorism: Behavior, culture, and evolution」第2版の邦訳書です。



- ① 給食経営管理論実習
給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解
 - ② 富田 教代
人間科学部 教授
 - ③ 富田教代、神田知子、朝見祐也 編
 - ④ 2016年9月
 - ⑤ 医歯薬出版
- 本書は、特定非営利活動法人 日本栄養改善学会が編集・監修の「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した教科書シリーズの第10巻の実習書です。



- ① 生産・流通・消費の近世史
 - ② 平野 哲也
人間科学部 准教授
 - ③ 渡辺尚志 編
 - ④ 2016年9月
 - ⑤ 勉誠出版
- 具体的なモノの移動を一貫して把握し、近世の人々の多様な暮らしをリアルに描き出した本です。平野は第1部「食料と肥料」の総論と米・魚肥に関する論文2編を執筆しました。



- ① 日本生活史辞典
 - ② 平野 哲也
人間科学部 准教授
 - ③ 木村茂光、安田常雄、白川部達夫、宮瀬交二 編
 - ④ 2016年10月
 - ⑤ 吉川弘文館
- 衣食住から労働・大衆文化・経済・近年の社会問題まで、日本人の生活文化を知るための辞典です。平野は、「赤子養育仕方」「換金作物」「農書」など15項目を執筆しました。



- ① 情報資源組織演習
情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる
 - ② 田嶋 知宏
人間科学部 助教
 - ③ 竹之内誠、長谷川昭子、西田洋平、田嶋知宏 編著
 - ④ 2016年9月
 - ⑤ ミネルヴァ書房
- 図書館で行われる情報資源の整理方法を実践的に学ぶための本です。主に、主題による整理方法についての章を担当しました。

①著書名 ②氏名・所属・職位 ③著者・編者等
④発行年月 ⑤発行所

大学院・大学・短大

- ★卒業式・学位授与式 3/20(月)
- ★入学式 4/3(月)
- ★オリエンテーション・ガイダンス ... 4/4(火)～4/7(金)
- ★授業開始 4/10(月)

高校

- ★卒業式 3/1(水)
- ★3学期修了式 3/22(水)
- ★1学期始業式 4/6(木)
- ★入学式 4/7(金)

智学館

- ★卒業式 3/2(木)
- ★4学期修了式 3/22(水)
- ★1学期始業式 4/5(水)
- ★入学式 4/6(木)

幼稚園

- ★卒園式 3/15(水)
- ★第3学期終業式 3/17(金)
- ★第1学期始業式 4/10(月)
- ★入園式 4/11(火)

アンケートご協力をお願い

- ①印象に残った記事とその理由など
 - ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど
- 皆さまからのご意見・ご感想をお寄せください。
※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

kikaku@tokiwa.ac.jp
〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1

★お寄せいただいた方の中から、抽選で20名様に常磐大学オリジナルグッズを差し上げます。



●常磐大学・常磐短期大学

2016年度 海外研修 参加者

2016年度は、総勢34名の常磐大学・常磐短期大学生が、以下の日程で海外研修に参加します。

海外研修A (アメリカ)

参加者: 9名



カリフォルニア大学アーバイン校

2017年 2月5日～3月5日 (29日間)

海外研修C 国際文化研修(イギリス)

参加者: 13名



チチェスター・カレッジ

2016年 8月7日～8月24日 (18日間)

海外研修C (タイ)

参加者: 4名



チェンマイ・ラジャバット大学

2017年 2月15日～3月2日 (16日間)

海外研修C (フィリピン)

参加者: 8名



バゴ大学

2017年 2月12日～2月25日 (14日間)

※2016年3月に学術連携協定を締結し、本年度より新たな派遣先として加わりました。

寄付者ご芳名

ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。(敬称略)
[2016年9月～12月受け付け分]

■ 諸澤幸雄奨学金制度の創設・充実

個人	
4,000円	坂井 知志*
芳名のみ公表	江原 麻子*、齋藤 智子*、齋藤 祐輔*、田邊 正*
法人	
500,000円	(株)西山工務店*
累計金額 96,574,208円	

■ 見和キャンパス開設50年施設整備事業募金

個人	
500,000円	中崎 啓子*
140,000円	小柳 武*、富田 恭平*
100,000円	稲葉 孝子*、江波(石川) 諄子*、佐久間 正祥*、横須賀 敬章*
50,000円	川津 園恵*
30,000円	松井 節子*
24,760円	村中 均*
20,000円	池上 里佳*、中村 和彦*
10,000円	岩間 俊、小林 真、戸部 照子*
5,000円	古賀 ノブ子
芳名のみ公表	飯島 洋子*、岩間 誠、打越 一子*、大内 千恵子、小貫 東里*、齋藤 智子*、椎名 英樹*、関 いつみ*、永井 敏子*、根本 知計*、濱崎 武子*、久松 雄大*、松丸 令子*、宮田 久美子*、横山 正和*
法人	
500,000円	(株)西山工務店*
100,000円	(株)アビック*、茨城交通(株)、(有)ケイオービルサービス*、東邦厨房(株)*、明利酒類(株)*
50,000円	(株)茨城ケイテクノ、富士ゼロックス茨城(株)*、(株)三上建築事務所*
30,000円	(株)茨城ひかりのくに、(株)坂場商店*、(有)佐久山伝造商店、ディールエス(株)*、(株)水戸京成百貨店、山三印刷(株)*
20,000円	(株)常陽銀行*、(株)フジビジネスマシンス*、(有)エーアンドアイ
10,000円	エス・イー・シーエレベーター(株)*、(株)カワマタコーポレーション、(特定非営利活動法人)雇用人材協会、(株)シーエス*、(株)日京クリエイト*、(有)文具のスノウ*、水戸農業協同組合
芳名のみ公表	大林写真館、水戸信用金庫*、リコージャパン(株)*
累計金額 5,274,760円	

■ 教科書等調査研究の助成

250,000円	(公益財団法人)教科書研究センター
----------	-------------------

■ 高校生徒への教育支援

芳名のみ公表	茨城県高等学校教育研究会英語部会
--------	------------------

■ 体育活動への支援(野球部)

200,000円	水嶋 陽子
----------	-------

■ 受配者指定寄付金

100,000円	三菱電機ビルテクノサービス(株)
30,000円	(株)グランドパワー

●複数回お申し込みくださいました方は芳名に*を付しました。

寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

★寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

tel: 029-232-2554 e-mail: kifu@tokiwa.ac.jp